

(様式3)

2025年度 特別支援学校ねむの木 学校評価シート

自己評価における評価平均は、A(達成できている)を4点、B(おおむね達成できている)を3点、C(あまり達成できていない)を2点、D(達成できていない)を1点として点数化し、その平均値を算出したものである。

領域	項目	達成目標	自己評価		学校関係者評価	
			評価平均値	特記事項	評価	特記事項
1 ねむの木学園の歴史に関する理解	1-1 設立者の人物像	設立者の経歴や人物像及びねむの木学園の設立を決意するに至った動機などについて理解しているか。	3.15	<ul style="list-style-type: none">自分としては理解しているつもりだが、教職員が皆理解できているかどうかは疑問である。まり子先生と接したことがある教職員が少なくなり、学園のことを知る機会が減ってきているので、どう伝えていくか課題だと思う。新入教職員に対して、ねむの木学園の歴史や教育理念等をしっかりと理解してもらえるよう、オリエンテーションが必要だと思う(中途採用の教職員にも)。ベテラン、中堅、新人と世代間のギャップが大きいと思う。私は理解しており、新入教職員に質問されれば伝えるようにはしている。学園のホームページ内の「学園小史」にある内容より確認した。設立者の人物像やねむの木学園の歴史について、教職員が学ぶ機会を設ける必要がある。	A	<ul style="list-style-type: none">パワーポイントや映画、テレビ番組といった映像を効果的に使用するなどの工夫をして、オリエンテーションや内部研修を行ってはどうか。新入教職員には集中的に内部研修を行ってほしいが、それ以外の教職員についても、開校記念日とか教育課程編成時など定期的に議論・研修を行う機会を設けてほしい。公立校と異なり、私立校の場合は設立者の教育理念を継承することが重要。担当者は熱意をもって若い教職員に伝えてほしい。
	1-2 ねむの木学園の歴史	ねむの木学園の設立の経緯及び設立から現在に至る歴史について理解しているか。	3.04	<ul style="list-style-type: none">オリエンテーションにて説明は受けている。「学園小史」を何度か見返して理解度を深めたい。		
	1-3 ねむの木村建設	ねむの木村建設に対する設立者の思いを理解しているか。	3.06	<ul style="list-style-type: none">ベテラン、中堅、新人と世代間のギャップが大きいと思う。		
	評価値平均		3.08			
	2-1 教育理念・教育方針の理解	設立者の教育理念を十分に理解した上で、本校の教育方針に則った学習指導計画が作成されているか。	2.87	<ul style="list-style-type: none">教育方針の異なる職員の言動の勢いに引っ張られることはある。教職員・子どもたちが心身共に健康維持できるよう支援している。教育方針は理解できている。		

領域	項目	達成目標	自己評価		学校関係者評価	
			評価 平均値	特記事項	評価	特記事項
2 学習指導計画の作成	2-2 こどもたちの多様性の尊重	こどもたちの個性・適性・能力・興味等に配慮し、一人一人の実態を踏まえた学習指導計画が作成されているか。	2.79	<ul style="list-style-type: none"> マンツーマンでの指導ができない。 こどもたちの実態に配慮した熱中症対策や感染対策につとめてきた。 発達障害対応の通信教育を受講して、こどもたちの個性等を知るための努力をしている。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 学習指導計画は前年度に比べると幾分良くなっているようだが、一層の改善が求められる。今後さらに、児童生徒一人一人の状況に応じた、きめ細かい適切な計画の立案に努めてほしい。
	2-3 オープンエデュケーション	学びの連続性を意識し、学部や学年にこだわらない系統的な学習指導計画が作成されているか。	2.97	<ul style="list-style-type: none"> 性教育や薬学指導について、職員に相談しながら行うことができた。 		
	評価値計		2.88			
3 特色ある教育への取り組み	3-1 計画に則った授業	学習指導計画に則った授業を行っているか。その場その場の思い付きで授業を行っていないか。	2.81	<ul style="list-style-type: none"> 普段授業を受け持っていないので内容はよくわからないが、学習指導は個別化されているのだろうか。 木工の授業においては個人の能力差が大きく、皆が同じ課題の授業を進めていくことに難しさを感じている。能力の高い子に他の子のサポートへまわってもらうこともあり、その子の学習態度や意欲への影響を懸念している。 職員室で教職員が授業の準備をしているのをよく見かける。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 看護担当や養護教諭の協力を得て性教育や薬学講座などを実施したことは評価したい。今後も新しいことに積極的に取り組むことで、授業の盛り上がり、児童生徒の学習意欲の向上につなげてほしい。 教職員が一つの教材研究を集中して行い、それが学習指導にどのように生かされたかといった過程を、内部研修の場で報告するような取り組みを行ってはどうか。
	3-2 こどもたちの状況に配慮した授業	こどもたち一人一人の身体的・精神的状況に配慮し、柔軟な対応を図りながら授業を行っているか。	3.09	<ul style="list-style-type: none"> 病院主治医や教職員と連携してきた。 		
	3-3 楽しい授業への工夫	こどもたちにとって楽しく、わかりやすい授業を行うよう工夫しているか。	2.94	<ul style="list-style-type: none"> 薬学講座や性教育を授業として実践できるよう参加していった。 		
	3-4 授業研究への取り組み	授業の改善と指導力の向上のために、研さんに励んでいるか。	2.77	<ul style="list-style-type: none"> 受け持っている子のためというより、全体的指導のための研さんは取り組んでいる。 性教育の必要性、熱中症対策、感染対策への向上を目指した。 研修や教材研究などの時間を取ることが難しい。 		

領域	項目	達成目標	自己評価		学校関係者評価	
			評価 平均値	特記事項	評価	特記事項
	3-5 実生活に役立つ学力の向上	実生活に役立つ基礎的な学力を身に付けさせることを常に意識して学習指導を行っているか。	2.90	<ul style="list-style-type: none"> ◦ そういう授業を実践したいと考えている。 ◦ 養護教諭の支えを受けながら学校での取り組み指導を受けていた。 		<p>◦ 現在すべての記録が教職員の手書きで行われているが、それを電子化すべきかどうかについて、今後の課題として検討するとともに、手書きの良さは残すべきという思いも大切にしたい。</p>
	3-6 生活支援と学校教育の一体化	生活支援と一体となった教育が実践されるよう心掛けているか。	3.00	<ul style="list-style-type: none"> ◦ この項目と3-5との違いがわかりにくい。 ◦ この方針が活かされるような授業を行いたいと考えている。 		
	3-7 集中感覚教育	芸術性を重視し、こどもたちの感性を育てることによって集中力を高める教育が実践されているか。	3.07	<ul style="list-style-type: none"> ◦ 直接携わってはいないが、音楽・美術・ダンス等に力を入れた教育が行われていると思う。 ◦ 運動会には参加できなかった。 		
	3-8 適正な記録	授業における学習内容やこどもたちの表れなどに関し、教科日誌や個人記録など適正な記録がなされているか。	2.81	<ul style="list-style-type: none"> ◦ タブレットを活用して、過去に作ったガラス作品の画像や焼成データをこどもたちが閲覧できるようにしてはどうか。 ◦ 今後、記録の電子化を検討してはどうか。 ◦ 毎時記録を付けることを心掛けているが、改善に向けての時間がなかなか取れない。 		
	3-9 的確な評価	こどもたちの到達度や学習意欲、態度などについて、的確な評価が行われ、次年度における学習指導に役立てられているか。	2.76	<ul style="list-style-type: none"> ◦ 前年度はできていた。今年度は3-8につながるが、次年度に役立てられるように評価したい。 		
			評価値計	2.91		
	4-1 こどもたちへの対応	こどもたちからの相談や悩みについて、親身にかつ適切に対応しているか。	2.92	<ul style="list-style-type: none"> ◦ 努力はしているが、特定のこどもからの暴言によりコミュニケーションが不足傾向にある。 ◦ こどもがヒステリーを起こす様子を見かけるが、教職員が一方的に指示するからだと思う。そのことを適切に報告するようにしたい。 ◦ こどもたちとの関わりをないがしろにしないよう努めている。 		<p>◦ この領域は教育の根幹となるものであり、特に4-2は大変重要な項目であるが、達成目標の表現が難しく、回答に窮するのではないかと。「誰でも仲良く」とか「思いやりをもって」「相手の立場をくみ取って」など、もう少し日常生活に身近な表現を用いたほうが</p>
	4-2 平和を希求する心の育成	人種、性別、宗教、政治的信念、その他あらゆる多様性を理解させ、人類全体の平和を希求する心を育てよう心掛けながらこどもたちに接しているか。	2.83	<ul style="list-style-type: none"> ◦ 宗教・政治的信念はこどもたちとの関わりにおいて取り組めることなのか。机上なら可能か。 ◦ 子どもに社会のことを伝える機会が少ない。 		

領域	項目	達成目標	自己評価		学校関係者評価	
			評価 平均値	特記事項	評価	特記事項
4 こどもたちの心の成長に資する教育	4-3 自然を愛する心の育成	自然を愛し、尊重するとともに、その脅威に対する畏怖の念を忘れさせないような指導を行っているか。	2.89		A	<p>よいのではない。</p> <ul style="list-style-type: none"> 4-3も同様。「草花を愛でる」とか「山の緑や川の水を大切にする」といった具体的な表現がよいのでは。 4-4の特記事項の表現などから、日々教職員の皆さんが力を尽くして奮闘されている様子がうかがえる。精神的な落ち着きを得て物を大切にすることを育てるため、茶道の授業はとても良い教育だと思われる。 こどもたちにとっての「あこがれの先生」という存在を目指してほしい。そうすればこどもたちは、見よう見まねで成長するものである。
	4-4 物を大切にする心の育成	常に整理整頓を心掛け、学校の設備・機器・教具等を大切に扱っているか。	2.92	<ul style="list-style-type: none"> 部屋の中をぐちゃぐちゃにする神様みたいな子と日々奮闘中である。 日々、本が大量に壊されている。 整理整頓は、こどもたちもまじえて一緒に行いたいと思う。声かけを心掛け、徹底したい。 		
	4-5 礼儀や思いやりを大切にすることを育てる心の育成	礼儀や思いやりを大切にすることを育てるよう心掛けながらこどもたちに接しているか。	2.93	<ul style="list-style-type: none"> 良いことや悪いことの区別、心のケアにつとめるよう努力している。 せっかく茶道を学んでも、礼儀作法が日常に活かされていない。 「ありがとう」「ごめんなさい」を中心として、挨拶はしっかりしたほうがよいと伝えている。 		
	4-6 自己主張できる強い意志の育成	他との調和を図りながらも自らの考えを明確に主張することのできる強い意志を育てることを心掛けながら、こどもたちに接しているか。	2.82	<ul style="list-style-type: none"> すさまじい自己主張をする子の様子が見受けられた。 		
	評価値計		2.89			
5 こどもたちの安全に関する意識	5-1 こどもたちの安全に関する意識	災害や犯罪などあらゆる脅威からこどもたちを守ることを常に意識して業務に当たっているか。	2.93	<ul style="list-style-type: none"> 感染対策、性教育の実践を心掛けている。 訓練にはできるだけ参加しているが、正直言って意識は高くない。訓練自体、生き残るためというより義務だからやっているという雰囲気があると思う。 職員の内心中では意識できていると感じる。 そうありたいと思っている。 		
	5-2 危機管理対応マニュアル	非常災害や事故等の発生に備え、危機管理対応マニュアルを把握しているか。	2.51	<ul style="list-style-type: none"> マニュアルを一読はしているが、すべてを把握しているか自信がない。 熱中症対策や感染症対策のマニュアルを作成するほか、性教育の実践に初めて取り組んだ。 早急に把握するようにしたい。 		
						<ul style="list-style-type: none"> 教職員配付用のBCPマニュアルが

領域	項目	達成目標	自己評価		学校関係者評価	
			評価 平均値	特記事項	評価	特記事項
5 安全対策の徹底	5-3 災害等に備えた訓練への参加	危機管理対応マニュアルに則って行われる訓練に、積極的に参加しているか。	2.47	<ul style="list-style-type: none"> 災害訓練には参加できていない。 避難訓練等に参加する機会をいただきたい。 全職員がもっと防災に対する意識を高めるべき。訓練の参加率が低い。 避難訓練に厨房の職員が参加していない。火元の一つになり得る厨房は参加すべきだと思う。次年度厨房に新入職員が入るとのことだが、避難訓練がないことが当たり前だと思われてしまわないか。これを機会に、訓練への厨房の職員の参加を検討してほしい。 	B	<p>作成されたことは評価したい。今後、部署ごと(事務、調理、看護など)の防災対策の構築を検討してほしい。</p> <p>。防災訓練は全員参加が当たり前である。教職員が個人的意思で出欠を決めることはできない。防災のシステム全体を見直し、再構築してほしい。</p> <p>。南海トラフ大地震の危険性が叫ばれている。東日本大震災時「釜石の奇跡」が注目されたが、普段の備えの賜物であり、学園でもしっかり防災に取り組んでほしい。</p> <p>。学園の立地条件から、特に土砂災害をイメージした防災訓練を重視してほしい。</p>
	5-4 防災機器の取り扱い	医療機器を含む防災機器・設備の取り扱い方法を把握しているか。	2.33	<ul style="list-style-type: none"> AEDはわかるが、非常用電源など他の機器・設備については自信がない。 早急に把握するようにしたい。 専門業者による取扱説明の機会があってもよいのではないか。 		
	5-5 危険箇所に対する迅速な対応	建物や設備等に不具合や危険な箇所を発見した際、迅速かつ適切に対応しているか。	2.81	<ul style="list-style-type: none"> 対応している。それが私の仕事であるので。 できることは少ないが、報告はするようにしている。 		
	5-6 感染予防対策	常に状況に応じた感染予防対策を心掛けているか。	3.39	<ul style="list-style-type: none"> らくらく連絡網を活用するなどして、教職員への注意喚起を心掛けた。 感染予防対策はしていても、感染リスクがあるときの対応はもう少し徹底できないかと思う。子どもたちが熱発した際の検査キットの使用有無や取り急ぎの通院等、対応が遅く感じる。 		
	評価値計		2.75			
	6-1 外来者への丁寧な対応	来客や出入り業者などへの対応、電話対応などにおいて、常に明るい態度で、また正しい言葉遣いで、かつ丁寧に行っているか。	3.38	<ul style="list-style-type: none"> 職員室やお店などでは比較的丁寧な対応ができています。特に職員室ではよくできていると思う。 「ねむの木学園に来てよかった。また来たい。」と思ってもらえるよう、さらに丁寧で明るい対応を皆で心掛けてほしい。 		

領域	項目	達成目標	自己評価		学校関係者評価	
			評価 平均値	特記事項	評価	特記事項
6 地域貢献	6-2 地域に開かれた学校づくり	地域に開かれた学校づくりを意識して業務に当たっているか。	2.53	<ul style="list-style-type: none"> ◦ 地域との関わりがよく理解出来ていない。 ◦ 薬学講座、性教育について、掛川市から協力を得ることができた。 ◦ どちらかという閉鎖的だと感じる。 ◦ 地域の行事や施設などへ外出、参加する機会があればと思う。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ◦ 6-2、6-3の自己評価が低くなりがちなのはやむを得ないと思われる。学園内部の教職員という立場からは、地域に開かれている、貢献できているということを実感するのは困難であろう。外部の立場から見れば、美術館や文学館、茶室、図書室の開放、そして運動会の開催など、地域に開かれた活動はしっかり行われており、文化の発信もよく頑張っていると言ってよい。
	6-3 地域の文化向上への貢献	ねむの木学園の活動が地域の文化向上に寄与することを意識して業務に当たっているか。	2.76	<ul style="list-style-type: none"> ◦ 具体的に思い浮かばない。 		
	6-4 積極的な対外活動への参加	美術展やコンサート、運動会など、様々な対外活動に、積極的に参加・協力しているか。	3.08	<ul style="list-style-type: none"> ◦ 対外活動において職員の間で温度差があり、全体で協力するということが難しいと感じる。 ◦ 運動会に参加できていない。 ◦ 学園の活動としてその意義は理解できるが、個人的には負担が大きく、はずしてほしいと感じる。 ◦ 積極的に参加しているとは言えず、強制参加なので参加している。 ◦ 運動会以外の活動にも参加したい。 ◦ 対外活動を行うことの意義が職員にもっとしっかり理解されるとよいと思う。 ◦ 機会があれば関わりたいと考えている。 		
	評価値計		2.97			
	7-1 あいさつの励行	こどもたちとの間に、また教職員間において、日々明るく快活なあいさつを交わしているか。	3.28	<ul style="list-style-type: none"> ◦ 声をかけても返事をせずになぜかだけの職員がしばしばいる。 		
	7-2 お互いの業務に関する理解と協力	お互いの業務分掌を理解し、他の教職員と協力して助け合うよう努めているか。	3.26	<ul style="list-style-type: none"> ◦ 職員によって抱える業務量の差がある。 ◦ 自分自身がまだわからないことが多く、助けられてばかりである。 		

領域	項目	達成目標	自己評価		学校関係者評価	
			評価 平均値	特記事項	評価	特記事項
7 チームで作る職場環境	7-3 教職員間の情報交換	常に他の教職員と密接に情報交換し、こどもたちの日々の状態の把握に努めているか。	3.00	<ul style="list-style-type: none"> 月1回ケース会議を行っているが、参加者が少ない。 月1回のケース会議があるので部屋ごとの話し合いは以前よりされるようになった。 一部の職員及び上司とはできていないと感じる。雑談できる場や機会があるとありがたい。今は非常に相談しずらさを感じる。普段からコミュニケーションをとっていないからだと思うが、相当の勇気をふり絞らないと声がかげられない。こわいと感じる時があるので困っている。 努力したが、中庭・グランドのおへやと虹・太陽のおへやとで、看護担当者の意見が違うというクレームがあった。 セクションで理解があっても、全体で理解されていない。 学園内勤務の職員と接する機会が少ないため、情報が不足している。 情報は聞くように心がけている。わからないことは教えてもらっている。 教職員間で情報が行き届かず、不明になる時がある。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 教職員によって抱える業務の量に偏りがあるようである。今後、業務の平準化を図ってほしい。 職種ごとのコミュニケーションの手段を構築してほしい。また教職員の世代間の意思疎通が円滑に行われるよう努力してほしい。 内部研修にて、教職員間で学習指導の方法について情報交流をし合ってはどうか。また内部だけでなく、外部の研修も適宜受講し、指導技術の向上を図ってほしい。
	7-4 効率的な業務の遂行	時間を上手に使って効率的な業務の実施ができるよう努めているか。	2.87	<ul style="list-style-type: none"> 兼務する業務が多すぎる。 前年よりできるようになったと感じる部分もあるが、まだ一層の研さんが必要。 自分の器を超えるような業務が増えたため、効率的ではない。 休憩時間でできるようなものを勤務として扱うべきか、わからない。 時間の使い方が上手いとは言えない。もっと効率良く。 		
	7-5 環境の美化に関する意識	ねむの木村の景観を大切に、建物や教室などの内外の美化に心を配っているか。	2.96	<ul style="list-style-type: none"> カーテンを洗うなどの時間を作ることができた。 教職員は、こどもたちがきれいな環境の中で生活し学習することができるよう、もっと意識を高めてほしい。 		
		評価値計	3.08			

領域	項目	達成目標	自己評価		学校関係者評価	
			評価 平均値	特記事項	評価	特記事項
8 明るく開かれた学園作り	8-1 楽しく明るい学習環境	こどもたちの人権が尊重され、日々楽しくまた明るく学習活動に参加できる環境作りがなされているか。	2.90		B	<ul style="list-style-type: none"> 特記事項の記入内容は教職員の本音であり、率直に意見を記入してくれたことは、ある意味ありがたいことと言える。学園としてどうマネジメントするか、こういった意見に対し改善の姿勢を示す必要がある。 教職員に改善の提案の機会を与えることがあってもよいのではないか。 「働き甲斐があるか」「楽しく仕事ができているか」「教職員として成長できていると感じるか」といった問いの項目を増やしてもよいのではないか。
	8-2 教職員の意欲の向上	教職員の人権が尊重され、学びや研修の機会が十分に与えられるとともに、業務に対する意欲が高められるような職場環境が形成されているか。	2.52	<ul style="list-style-type: none"> 教職員が日々の業務に追われ、心の余裕が感じられない。研修に行くにも日々の業務に支障が出ると思うと参加しづらい。 今年度、日肢療連交換研修で沢山の学びを得ることができた。 こどもに教職員の私的なことを話すがいる。 教職員の人権が尊重されているとは、あまり思えない。 仕事の負担が教職員によってばらつきがあり、均一化が望まれる。 研修の機会を作りたいが、勤務調整の兼ね合いが難しい。 		
	8-3 積極的な情報発信	ねむの木学園の特色ある教育活動について積極的にかつ幅広く情報発信し、名声を高める努力がなされているか。	2.52	<ul style="list-style-type: none"> 今年度はSNSで学園の活動の様子をたくさん発信できている。 		
		評価値計	2.64			
総合評価			2.90	<ul style="list-style-type: none"> 学校評価なので少なくとも学校の教職員は期限内に全員提出してほしい。 すべての教職員が授業だけに関わらずこどもたちに対応していくことが求められているので、必要なことだと思うが、学校の教職員が評価シートを提出していない様子が今までの中で見られるため、改善していただきたい。 授業時間に関してのことだけではないが、遅刻する、寝てしまっている、などとこどもたちから話が出ていることもあるので、改善をする必要があるのではないか。 個別・全体に関わらず、どんな形で行っているかをもっと見に来ていただきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校評価によって課題や改善すべき点が明確になり、意義があったと思われる。今後、学校評価を行うことの良さを浸透させてほしい。 内部にいる教職員からすれば当たり前と思えることでも、外部から見ると素晴らしいと見ることが少なくない。 達成目標の文面について、回答者(記入者)自身のことが問われているのか、学園全体についての見解を問われているのか、理解しやすかつ回答しやすい表現に改めてほしい。 また項目を随時工夫、改善して欲しい。 自己評価の点数の集計方法について、AとBあるいはCとDの合計数や割合を算出するといった分析を試みてはどうか。 	